国産LLMの知財実務における活用現状と導入課題

特徴的な国産LLMの活用事例と、企業知財部門が直面する精度・セキュリティ面での課題および評価指標を視覚的に伝える。

国産LLMの知財実務における活用現状



出願・調査業務への実装

対話支援や文書案作成で企業での試行が始まっている。



検索再現率70%への向上

引用穏遼の再現率は向上したが判定精度には限界が残る。



閉域環境でのオンプレ運用

機密情報保護のため自社DBと連携した閉域検索を導入。

導入における課題と評価指標



精度不安44.4%の壁

知財業務でのAI活用における最大の懸念点となっている。



最終判断における専門家検証

FTO調査等ではAIの誤除外を防ぐ人間の最終確認が不可欠。



費用対効果の多角評価

推論料や検証工数を含めた総合的な費用対効果を計測。

主要知財業務におけるAIの対応範囲と導入時に測定すべき評価指標の比較

業務区分	AIに任せる範囲	AIに任せる範囲	導入時に測る主な評価指標
発明提案	ヒアリングからの課題・効果抽出と質問生成	ヒアリングからの課題・効果抽出と質問生成	総作業時間および誤情時の発生件数
先行技術調査	検索式提案・技術分類・候補整理	検索式提案・技術分類・候補整理	同一基準日での認知文蕨の再現率
侵害予防（FTO）	対象製品と構成要件の対比表案作成	対象製品と構成要件の対比表案作成	重重権利の見落とし数と弁理士の修正時間

Gemini Notebook